

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式				
AM32Z011		導入 (自己理解のための心理臨床学入門) (Introduction (Clinical Psychology for Self-understanding))					導入教育科目 福祉・地域	対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	1	1	医学部医学科	前期	金1	氏名 関根 剛 E-mail sekine@oita-nhs.ac.jp 内線						
授業概要	本講義では、人が「身体」とは別の「認知」や「心理」というところの働きについて、グループワークや演習などを取り入れながら、自分自身の体験を通じて自己理解を深めることを目的とする。患者の身体を理解するためには、血圧計やMRIなどのツールがある。しかし、患者の心を理解するための機械や道具はない。使えるものは、医療者自身というツールだけである。医療者自身というツールが高度なら、患者の心の理解も高度なものになる。自分自身が良いツールになるためには、「自己」というツールを磨くしかない。そのためには、「自己」というツールの特性を知り、感受性や識別力をあげることが必要である。本講義では、自分自身について考えたり体験したりすることを通じて、自己理解を深める。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	他人という異文化：異文化は身近なものであり、他者を理解するためには、自分自身を理解することが重要だということを理解する。											
2	グループワーク1：構成的エンカウンターグループにより、他者との関係を持つ、人との関わりを通じて自己に気づく演習を行う。											
3	グループワーク2：構成的エンカウンターグループにより、自分自身の考え方、自分の特徴など、自己理解を深める演習を行う。											
4	知覚1：自分が見ているものは本当か？見るという単純な行動の中に、自分のものごとの捉え方が影響することを体験を通じて理解する。											
5	知覚2：人は自分の経験からしか物が理解できない。自分自身の経験が物事の理解に影響を及ぼしていることを体験を通じて理解する。											
6	性格1：個々人の特徴である性格がどのように形成され、どう分類されるのかを知る。											
7	性格2：様々な心理検査と仕組み（質問紙法）：質問紙法による心理検査を実際に行い、質問紙法の特徴を知るとともに自己の傾向を知る。											
8	性格3：様々な心理検査と仕組み（投影法）：投影法による心理検査について知り、投影法の特徴を知るとともに自己の傾向を知る。											
9	コミュニケーションスキル1：基本的なコミュニケーションスキルの演習を通じて、自己のコミュニケーションの癖に気づく。											
10	コミュニケーションスキル2：「共感」は聴く人の価値観の影響を受けやすく、自己のバイアスを通じて共感することを理解する。											
11	コミュニケーションスキル3（ロールプレイ）：ロールプレイを通じて、理論ではなく体験から自分のコミュニケーションの癖の理解を深める。											
12	プレゼンテーション1：相手に何かを伝えるための効果的な方法について知る。											
13	プレゼンテーション2：実際にプレゼンテーションを行い、自己のスキルを確認する。											
14	性格4：リーダーシップについての理論について知り、心理テストで自己のリーダーシップの特徴を知る。											
15	性格5：人間同士の相性と関連するユングのタイプ理論について知り、心理テストで自己の傾向を知る。											
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	・毎回、知識確認テスト、前回の質問への回答を行う ・講師からの発問、グループ討議を行う。 ・学んだスキルを用いてロールプレイを行う。 ・心理検査作成の手順を理解し作ってみる。					工 夫 そ の 他 の	・構成的エンカウンターグループを行う ・心理テストを実施して自分の結果を知る				
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	事前に知らせる講義と関連する資料等について、精読・視聴する(12h)。										
	事後学修	講義中に提供する資料等について精読・視聴したり、任意の小レポートを提出したりする(12h)。										
教科書	指定しない。講義内でハンドアウトを配付する。											
参考書	様々な分野と関わるので、テーマごとに講義内で紹介する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	「知識確認テスト」及び「思考を深めるための小レポート（任意提出）」	65%										
	構成的エンカウンターグループから得た自己理解についてのレポート	10%										
	最終レポート	25%										
注意事項	多くの演習やグループワークを取り入れるので、積極的に講義や討議へ参加すること。											
備考												
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	臨床心理士、少年鑑別所勤務、電話相談スーパーバイザー
実務経験を いかした教 育内容	構成的エンカウンターグループ、コミュニケーションスキル、心理検査等に関する演習を行う。